

優秀賞 低学年の部

## お母さんありがとう

福島県  
川俣町立山木屋小学校 二年

星 悠大

ぼくのお母さん、手がすごく大きいの。

この大きな手で何でもしちゃう。ぼくがまだお母さんのおなかの中にいるときは、大きな手で毎日なでてくれたんだ。お母さんから聞いたんだけれどね、ぼくはそのときのことはわからないけれど、弟が生まれるときも、やつぱりそうしてたつて。

お母さんの手で作ると、何でも大きくなっちゃうよ。ハンバーグもちょうとく大。

「おみせやさんのより大きいね。」

と、ぼくが言うと、お母さんはぼくをちらつと見てにやにやする。

春にみんなでお花見に出かけたときも、おにぎりが大きくてびっくりした。

ぼくは、そんなお母さんが作る、大きなものが大好き。だって、おいしさも、たのしさも、ほかのどれよりも大きいんだもん。

ぼくのお母さんは強いよ。大きな手で、ぼくたちをつか

まえるんだ。ぼくたちが、どんなにたたかっても、大きな手にはかなわない。

この間、ごはんを食べているときに弟とふざけていたら、大きな手かとんできて、たちまち外にだされちゃった。

「大事なことをわすれた。」

「食べるものは、いのちなんだ。」

ぼくたちはびっくりして、なきながらあやまったんだ。すると、大きな手がとびらを開けて、やさしくぼくたちをつつんでくれた。

「ごめんなさい。」

でも、やつぱり大きな手はいいな。

バレーボールをしているときの大きな手は、すごくかっこいいんだ。ぼくのじまんだよ。ぼくたちはときどき大ききくらべをするけれど、まだまだだぜんぜんおいつかない。いつか、この手をおいこしたいな。

大すきな大きな手。

ありがとう、大すきな手。